

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

研修会テキスト開発についての研究

研究代表者：深津 玲子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 第三診療部長  
研究分担者：立石雅子 日本言語聴覚士協会 副会長  
青木美和子 札幌国際大学 教授  
上田敬太 京都大学 講師  
渡邊修 東京慈恵会医科大学 教授  
鈴木匡子 東北大学 教授  
廣瀬綾奈 千葉県千葉リハビリテーションセンター 科長  
浦上裕子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部長  
今橋久美子 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 主任研究官

研究要旨

本研究は、高次脳機能障害者に対する支援者養成研修のカリキュラムおよびテキストを開発し、同障害者への適切な支援につなげることを目的とした研究の一環として、研究班が開発した研修カリキュラムに沿って、同研修テキストを開発することを目的とする。初年度である令和2年度は研修基礎編のテキストを作成した。また同テキストを用いて、福祉行政担当職員研修を少人数で試行した。研修内容の理解については「理解できた」46%、「ある程度理解できた」54%と有効であることが示唆され、総合評価は「大変参考になった」67%、「ある程度参考になった」33%とおおむね好評であった。今回得られた意見等を参考に、さらにテキスト改修をすすめ、また支援拠点機関と共催で各自自治体の研修会開催を重ねることで、支援者養成研修のパッケージ化を進めたい。

研究協力者

片岡保憲：脳損傷友の会高知青い空 理事長  
古謝由美：日本高次脳機能障害友の会 監事  
守矢亜由美：東京都心身障害者福祉センター  
地域支援課 高次脳機能障害者支援担当  
鈴木智敦：名古屋市総合リハビリテーション  
センター 副センター長  
瀧澤学：神奈川県総合リハビリテーション  
センター 総括主査  
佐宗めぐみ：相談支援「楽翔」管理者  
小西川梨紗：滋賀県高次脳機能障害支援セン  
ター 臨床心理士  
コワリック優華：滋賀県高次脳機能障害支援  
センター 看護師

A. 研究目的

高次脳機能障害の支援については、障害福祉制度の整備は進んだが、現場の支援者には未経験な者も多く、同障害の特性に応じた支援が十分行われているとは言えない。この課題に対応するため、申請者は平成30、令和元年度厚労科研を用いて「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援マニュアル」を開発した。また支援の実態調査及び分析を行い、障害福祉サービス現場の支援者養成が喫緊の課題であることが明らかとなった。これらの結果に基づき、本研究は、高次脳機能障害者に対する支援者養成研修のカリ

キュラムおよびテキストを開発し、同障害者への適切な支援につなげることを目的とした研究の一環として、研究班が開発した研修カリキュラムに沿って、同研修テキストを開発することを目的とする。高次脳機能障害に対応可能な支援者を増やすことで、同障害者が住み慣れた地域で生活を営める体制整備の推進を図る。

## B. 研究方法

1) 研修カリキュラム（基礎編）に沿って、高次脳機能障害支援に先進的に取り組む医療、福祉の専門家である代表・分担研究者及び研究協力者が担当する講義部分をスライド様式（パワーポイント）で作成する。

2) 上記研修テキストを用いて、モデル研修および受講者アンケートを行う。

（倫理面への配慮）

研修テキストには、個人が特定されるデータは使用しない。事例報告等を行う場合は、所属機関の倫理審査委員会の承認を得たうえで、インフォームドコンセントを徹底し、対象者及び家族の同意を得る。また、個人が特定できないように格別の注意を払う。加えてコンピューター犯罪のリスクを完全に防御されるよう最大限の努力をする。

## C. 研究結果

1) 研修テキスト（基礎編）の作成担当者は下記の表 1. の通りである。一部準備中である。また、研修テキスト案（基礎編）は巻末資料として掲載した。編集にあたり、研究分担者および研究協力者の意見を集約している。

表 1 研修テキスト作成者

形式	内容	担当者
講義	高次脳機能障害とは	深津
	1) 本研修の対象となる障害	

	2) 高次脳機能障害の定義と支援の歴史的な流れ	
講義	障害特性の理解	
	1) 診断（典型画像と経過・症状の現れ方）	鈴木(匡)
	2) 問診・神経心理学的評価（日常生活で気づくこと・留意すること）	
	3) 医学的リハビリテーション（病院で行うリハビリテーション）	渡邊
	4) 医療福祉連携（退院後のサービス利用に向けて・診断書のポイント）	
講義	支援のアイデア：障害特性に基づいた支援 1	
	1) 高次脳機能障害と制度（支援の基本的な枠組み・プロセス）	今橋
	2) 生活と支援の実際（環境調整）	青木
	3) 復職支援・就労支援	今橋
演習	障害特性の理解と体験	深津・今橋
	「かなひろいテスト」や「S-PA」等の体験（注意や記憶の働き等の理解）	準備中
講義	支援のアイデア：障害特性に基づいた支援 2	
	1) コミュニケーション支援	立石
	2) 小児期における支援	廣瀬
	3) 発達障害・認知症・精神疾患との共通点と相違点	上田
	4) 長期経過（フォローアップとライフステージに応じた支援）	浦上
演習	障害特性の把握と対応（社会的行動障害（軽度）対応演習）	
	1) グループワーク（DVD 視聴：障害特性の把握と対応方法のディスカッション）	準備中
	2) 対応方法演習（ロールプレイ）	片岡
	3) グループワーク及び発表（対応方法の振り返りと支援計画検討）	準備中
講義	家族支援	
	当事者・家族の気持ち	青木
	権利擁護と成年後見制度等	今橋
講義	地域資源の活用	今橋
講義	基本的な情報収集と記録等の共有（情報収集とアセスメントの基本）	今橋
	1) 情報収集とアセスメント	

	2)記録のまとめ方と情報共有	
演習	障害特性の把握と対応（手順書作成演習）	深津・今橋
	1)グループワーク（DVD視聴:障害特性の把握と対応方法のディスカッション）	準備中
	2)手順書作成演習	
	3)グループワーク及び発表（対応方法の振り返りと支援計画検討）	
講義	実践報告	
	1)小児期の支援	廣瀬
	2)小児期発症の成人例	小西川
	3)成人期の発症例	今橋

2)モデル研修および受講者アンケート：基礎編テキストを用いて令和2年11月5日千葉県社会福祉協議会主催の福祉行政担当職員研修を、研究代表者の深津と分担研究者の今橋の2名が講師となり実施した。24人が参加した（COVID-19感染拡大防止のため人数を制限）。アンケート結果を表2に示す。

表2 アンケート結果（回答数 24）

内容の理解	理解できた	11
	ある程度理解できた	13
	あまり理解できなかった	0
	理解できなかった	0
総合評価	大変参考になった	16
	ある程度参考になった	8
	あまり参考にならなかった	0
	参考にならなかった	0
自由記載	当事者が、市の窓口や手続き、書類について望むことを知りたい。	
	実践報告を聞きたい。	
	「生活と支援の実際」は、窓口の担当者に求めるレベルとしては、少し詳しくすぎるのではないかと感じた。	
	レジュメが分かりやすく、書き込みもしやすかった。	

#### D. 考察・結論

今年度は研修基礎編のテキストについておおよそ内容を確定した。試行的にモデル研修を人数制

限して集合型で開催したが、新型コロナウイルス感染の状況に鑑み、今後はオンライン、ハイブリット形式での研修会で使用可能なテキスト仕様とする予定である。

本研究は、神経内科学、脳神経外科学、リハビリテーション医学、神経心理学、社会福祉学等、分野横断型の取り組みであり、高次脳機能障害者・児の生活支援を多角的にとらえて補完しあい、社会への還元を目指す試みである。

障害特性に応じたサービスを提供できる人材の育成は、社会的要請に基づく課題であり、その成果は障害福祉行政施策に直接寄与するものである。

#### F. 健康危険情報 特になし

#### G. 研究発表

##### ・論文発表

1. 本田有正、渡邊 修、武原 格、秋元秀昭、福井遼太、池田久美、安保雅博. Central neurocytoma 摘出術後の高次脳機能障害に対しリハビリテーション治療を行った一症例 臨床リハ 2020, 29(10):1077-1080.
2. 大熊 諒、帯刀 舞、岩井慶志郎、渡邊 修、安保雅博. 脳損傷者のドライビングシミュレーターによる評価と運転再開可否判定の関係性～運転再開可否判定の予測に向けた基準値の検討～ 作業療法ジャーナル 2020, 39(2):202-209.
3. Miyeong G, Baba T, Hosokai Y, Nishio Y, Kikuchi A, Hirayama K, Hasegawa T, Aoki M, Takeda A, Mori E, Suzuki K. Clinical and cerebral metabolic changes in Parkinson's disease with basal forebrain atrophy. Movement Disorders 35; 825-832, 2020 doi:10.1002/mds.27988
4. Oishi Y, Imamura T, Shimomura T, Suzuki K. Visual texture agnosia influences object identification in dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease. Cortex

129 ; 23-32, 2020 PMID: 32422422

5. Aso T, Sugihara G, Murai T, Ubukata S, Urayama SI, Ueno T, Fujimoto G, Thuy DHD, Fukuyama H, Ueda K. A venous mechanism of ventriculomegaly shared between traumatic brain injury and normal ageing. *Brain*. 2020; 143(6): 1843-1856.

・学会発表

1. 渡邊 修、濱 碧、池田久美、柏原一水片木真子、竹川 徹、安保雅博：高次脳機能障害を有する脳卒中患者の家族に対する介護負担感調査 第4回 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2020, 神戸
2. 廣瀬綾奈、中島友加、小倉由紀、湧井敦子、太田令子、片桐伯真. 急性期・回復期の高次脳機能障害の子どもをもつ保護者の支援ニーズ. 第44回日本高次脳機能障害学会, 2020, 岡山(オンライン).
3. 上田敬太. 外傷性脳損傷での社会的行動障害の特徴と支援. 第44回日本高次脳機能障害学会学術総会 2020、岡山 (オンライン)
4. 浦上裕子. 高次脳機能障害リハビリテーションにおける脳波検査の意義. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2020. 8. 19, 京都
5. 今橋久美子、立石博章、小西川梨紗、宮川和彦、コワリック優香、森下英志、粉川貴司、平山信夫、深津玲子. 指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業所における高次脳機能障害者・児への支援状況調査. 第44回日本高次脳機能障害学会, 2020, 岡山(オンライン).

H. 知的財産権の出願・取得状況 なし